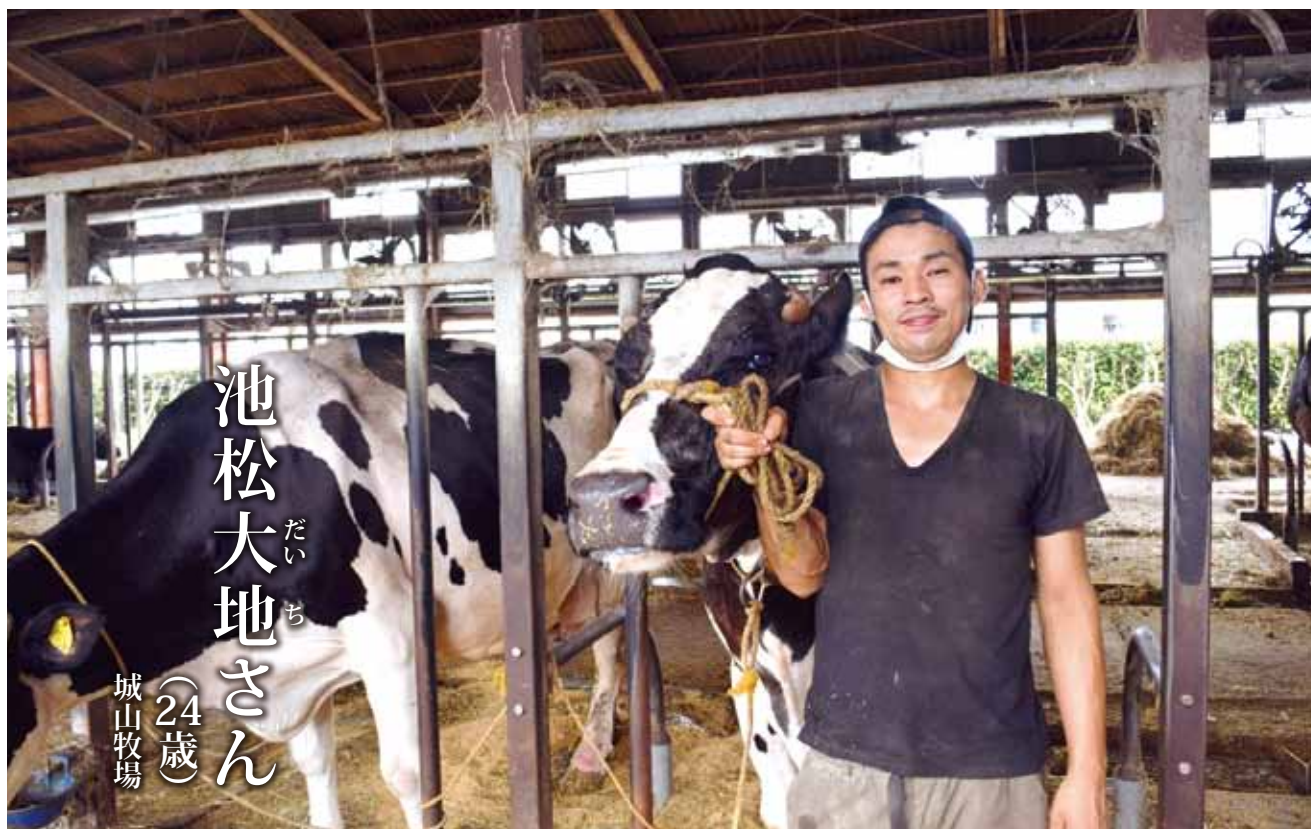




HiBI-OGORI

Vol.5

日々のおごおり。

地域おこし協力隊が日々であう
おごおりの魅力的なひと、コト。
毎月ひとつ、紹介します。

今回の担当は山田です。



“あたりまえ”が
誇れる仕事になりました

お松、ハチバン、ラブちゃん
：“牛をあだ名で呼ぶと人懐
っこくなる”という大地さん。
慣れた手つきで牛に縄をかけ、
温かいまなざしを向けます。自
宅前には牛舎があり、幼い頃か
らエサやりの日々。「牛ととも
にある暮らし」はごくあたりま
えのことでした。

酪農業を継ぐことに迷いはな
かったという大地さんは、農業
大学校で畜産を学び、昭和8年
創業の歴史ある城山牧場の5代
目として就農。「祖父母も両親
も自分に任せようとしてくれる
自分で考え、やってみて分から
ないことがあれば、頼れる先輩
に相談する」。4年目を迎えた
大地さんは、日々の学びを積み
重ねながら、着実に前進してい
ます。早朝から始まる仕事は、
牛の世話、搾乳など、休日があ
りません。牛はデリケートな動
物で、急に体調を崩すことや、
お産もあります。でも「家族旅
行なんて行けなかった」と振り
返る顔は、ふしぎと笑顔。その
理由を聞くと、まだ学生で実習
とのかけもちで休日のない日々
を送っていた頃、実習先で「毎



🕒 毎日一頭ずつしっかり観察



🕒 味のある看板は祖父の手づくり

日仕事があるということは、毎
日収入があるという幸せなこと
だ」と言葉をかけられ、ハツと
したそう。それ以来、心からい
い仕事だと誇れるようになりま
した。
実直に牛と向き合う大地さん
は、今後牛を活用した楽しい企
画も考えているとか。食欲な探
求心と、情熱ある若い力に、酪
農の明るい未来が見えた気がし
ます。